

大橋川発掘調査だより

せと あさくみの促戸 (1便)

平成 30 年 6月20日発行

発行：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

シコノ谷遺跡監督員詰所 TEL (0852) 39-0022

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターでは、6月から大橋川改修に伴い、松江市朝酌町にあるシコノ谷遺跡で発掘調査を実施いたしております。地域の皆様には、ご不便をおかけすることがあるかと思いますが、**ご理解とご協力をいただきたく、よろしくお願いたします。**

また、発掘現場は、地面を深く掘り下げる場所もあり、**大変危険**ですので、無断で立ち入らないようお願いいたします。見学を希望される場合は、事前に監督員詰所までご連絡ください。

今後の発掘調査の様子につきましては、こちらの発掘調査だよりにてお知らせいたします。



発掘調査の位置 (国土地理院 25,000 分の 1 松江)

シコノ谷遺跡について

今回の調査に先立って小規模 (28・29 年) の調査が行われました。その結果、縄文時代とよばれる大昔に人が生活していた痕跡が見つかりました。

【上の層】

今から 2600 年前の縄文時代終末期の土器がたくさん出てきました。

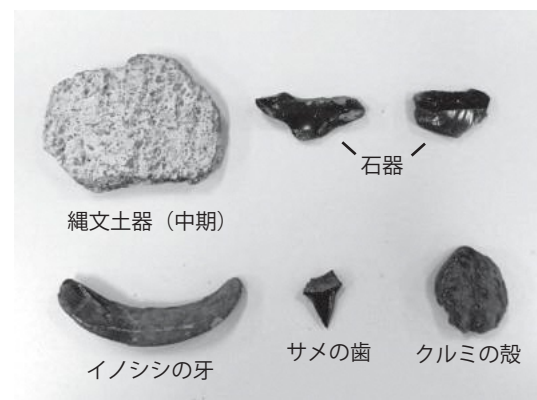
【下の層】

今から 5000 年前の縄文中期の土器やナイフのような石器とともに、イノシシの牙、サメの歯、魚の骨、動物の骨、クルミの殻などが出てきました。

せと
促戸とは：『出雲国風土記』嶋根郡条に「朝酌促戸」として大橋川周辺の人々の様子が記述されています。促戸とは瀬戸のことで、ここには公の渡場がありました。



『山陰の黎明 縄文のムラと暮らし』より



昨年の事前調査で下の層から出た土器や石器など